

みずつき

「水」ガテーマのアンソロジー

mizutsuki
2022

11

みずつき
「水」がテーマのアンソロジー

mizutsumi
2022

ご参加
いたさん
みなさん
(五十音順)

五十子尚夏	古都 梨衣子	@_yu_ca_li
榎田 えりい	@tocotocotouko	今 咲子
宇祖田都子	@Shinnsyutu2020	西藤智
泳一	@Eishimada	酒庭かや
大橋春人	@hachidx2	咲兵衛
岡田奈紀佐	@spice16g	佐藤水魚
青時	@madobenoumibe	西鎮
浅葱ねお	@book_aoimusyoku	雀來
あなぐさ	@matobarium	多香子
天野うずめ	@uzume_no_hjiri	高田月光
雨虎俊實	@ametfurashi3107	高橋良
新棚のい	@HCCMONO	瀧口美和
有村桔梗	@chattenoire_k	滝藤青瀬
田中翠香	@suiakakineni	湯嶋せじぬ
田村穂隆	@Da_Ho_Ra	夜夜ゆるべ
千原 こせら	@kohagi_tw	@yorusari
堂那灼風	@shakufur	ルナ
長井めぐ	@longmemo_tanka	渡邊知博
中村育	@nknnik	眞崎あや
中村成志	@nakam8	丸瀬あわ
樋原もか	@kharaneko	本条恵
成瀬悠	@naruse000yuu	牧角ひづ
奈瑠太	@naldal_aa	渡辺知博
西淳子	@lacky244Ray	渡邊知博
ネコノカナヒ	@nekonokanane_utu	湯嶋せじぬ
林見 年	@poya5himi	夜夜ゆるべ
早月みづ	@k_hayatsuki	ルナ
飛和	@hiwa_towa	渡邊知博
福山桃歌	@momoka_fukuyama	眞崎あや



雨、まだ音のない日々

傷跡が軋んで遠い葉が落ちるやけに今日は雨が馴れ馴れしい
待つことに慣れて五月雨静まり返る雑踏をあなたは
紫陽花よ わたしの全てを集めても足りないみたい、会いたいよ
終わるくらいなら始まらないで 濡れた羽が降り積もってゆくのを
傘の中での低い声おじいさんになつてもあなたは音楽をする
からっぽな体に木霊する雨音がやがて鼓動になるまでのこと

青藤木葉 @konoha_ao

涙ごと降つてくる水無月

まどろみに佇むホーム見渡せばここも一つの舟かと思う
宵空を溜めた水槽とつぶりと車窓は揺れて星積もる夜へ
東雲に列車はうつらうつら往くかもめもひとりではないのかも
水鏡列車が往けばきらきらと光の波は久遠へわたる
あかねさす朝日たっぷり浴びたなら星を抱いて生まれ変われる
まどろみに降り立つホーム気がつけばひこも家だと思う「ただいま」

青時 @madobenoumibe

手のひらに摑める風があれば雨 わかるという感覚があつて
雨 どうしようもなく濡れたくなつた 傷つけることが今は欲しい
この雨も月が冷やしてなのだろう 涙ごと降つてくる水無月
寂しさが込み上げるたびあなたに溢れる湖がここにあるの
瞳から零れまいと膨らむ粒 生まれた海は揺れて燐く
これからも比喩になる前の涙は私のために光るのだろう

浅葱ねお @book_aoinusyoku

呼吸

水槽で生まれたきみが笑うたび揺れる尾ひれのみずうみのいろ
雨雲を率いて駆けてくる神にとびきり甘い缶コーヒーを
乗り越して海へいこうよ急行はクレーマーより速く走れる
息継ぎを忘れずにゆけばランダの飛び込み台に跳ねる雨音
聴こえない声でこたえよ砂浜に波がしずかにしみとおるとき
雨上がりひとりになつた三毛猫が木の腰掛けで空を見ている

サマー・ブリーズ

僕たちはハーバリウムの中にいて飛び込み禁止のホイッスル遠く
糖質の真夏の粒子を吸い込んだきみのタオルを渡してくれた
なんとなく言いかけたことわかるのと言われてふさぐきみの口もと
塩分と亜鉛やフツ素、みかん水できみの吐息は構成されて
本当は来るはずの夏 上澄みのかじりたかつたクラッシュアイス
長い夢ぐらいの長さしかなくてきみとの夏はガムシロの色

雨虎俊實 @amefurashi3107

ドリームウォーター

汽水域

ストレスは水溶性と知りてのち手洗いをする時間が伸びる
シャワーフット選択肢すら挙がらずに見ているだけの検証動画
湖のボートに花を敷き詰めて僕の死体が乗っている夢
創英角ポップ体にて「水道局たより七月号」は書かれる
締め出した世界とるにつながつてぬるくとも飲むボカリスウェット
寒くとも暑くともいい梅雨空の下で誰かに水を求める

天野うづめ @uzume_no_hijiri

新棚のい @HCCMONO

水の変容

ひとりきにみづ飲み干せばわたくしの昏きところにひとすぢの川
ひややかな夜に匂へる香水はきみの急所を教へるやうに
死にたいといふよりむしろあとかたもなく消えてしまひたかつた 雨
つむじまでお湯にしづめて真夜中の湯舟に生まれなほしてゐたり
時は河 たうたうとゆくみなそこに感情といふ灑をしづめて
さうめんをざらつとお湯に解き放ち夏をはじめてよろしいですか

有村 桔梗 @chattenoire_k

植田 とう一 @tocotocotouko

フォローを外す

紫陽花の小径を抜けてゆくときに飛び交う紫陽花たちのスラング
おもむろにアップルウォッチを外すとき腕にはつかな二ペアの匂い
五月雨に耳すませつ何となくイーロン・マスクのフォローを外す
はつなつの夢のなかにてわたくしは水原紫苑の絵に描かれたり
さびしさよ 飛び込み台に一本の樹木のごとくみは立ちたり
さみどりの風吹くなかに提げてゆくメロンは地球に引かれつつゆく

五十子 尚 夏

宇祖田 都子 @Shinnsyutu2020

かたつむり、あじさい

雨雲がきれいな色で僕たちの街に近づくテレビの中で
かたつむり ひとりでいることをやつと飲み始めたからそこにいるのか
雨音が聞こえる前に眠りたい 隣の子がまたギター弾いてる
傷つけたことを忘れてその傷を雨の日に思い出すことがある
見なければ何もないから見ずにして水道をいっぱいにひねって
六月に答えはなくて かたつむり、あじさい、ぜんぶ不思議な形

泳一 @Ejshimada

岡田 奈紀佐 @spice16g

雨の日とそうでない日

まだ雨の降らない街で紫陽花はその領域を広げてゆけり
梅雨に読むべき本を買う『罪と罰』『白鯨』『源氏物語』ほか

雨音に意識は爆ぜる太陽はぬばたまの黒雲の奥にあり
懷メロを口ずさむごとため池は叩かれている雨のリズムに

ムエンゴの投手の汗を拭うように週明け雨の予報よ失せろ

廻る水

新緑を揺らして青い風の走るウユニ塩湖は水田にあり
雨垂れのリズムは自在に変わりゆく追いつけない鼓動の寂しさよ
露帯びる草はらにそつと寝転んで沈んでゆく六月のオフィーリア
虫の音がかぶかぶ昇るよクラムボン黒く澄んだ沢の底から
アヴェ・マリス・ステラ歌つて裸足のまま青いワンピースで海を呼ぶ
飲み干したアクエリアスが胸の中叫んでる廻る水のルフラン

水槽の断面

続けてたことを止めたくなった時水が滴る鍵穴がある
道ばたの濡れた小石が目印の海に一番近いジョナサン
細胞の内と外とに満たされる水を記憶と呼べば潮騒
悲しみは涙で薄められるのを前提として濃くつくられる
カメラには写らぬ側の手に持つたコップの水をゆっくりこぼす
人間の身体はほとんど水分でそのほとんどは濁っています

swimming days

わたしにも尾びれが生えていた頃の記憶としての塩素のにおい
今はもう消毒槽はないと聞くクナイプのバスソルトを探す
平泳ぎが一番得意人波は感情に溢れて泳げない
鼻の奥がつんと痛くて泣いている泣いていないよ水が入った
息継ぎのために写真を撮っている 空、花、ひかり、きみの横顔
クイックでターンを決める一瞬の音のない音きみに聞こえる?

池のある公園のお屋(")はん

木漏れ日の池のほとりに腰掛けて黄緑色の息を吸つてる
春の陽をからだいいっぱいあたるため弁当持つて落合公園

届いたら豚味噌おにぎらずになりましたみんな美味しいお屋(")はんだけ
日曜日からあげ買ってお屋(")飯内々神社の日陰を探し

春日井市都市緑化植物園に動物少しいるの楽しい
勅使ヶ池公園の木陰お屋(")飯池を回つてお家に帰ろう。

オニオングープ

後朝

久々に乗るのぞみ号富士山を雨雲が包むのを横目に
湾岸をモノレールから凝視して楽園という地を夢想する
蒸し暑い池袋東口早足で行く紫の柄シャツを失う
予約したネカフェに泊まる二十種のドリンクバーを試しきれない
十年も前に終わった活劇の結末を知る午前四時半
冷めてきたオニオングープ嚙下して帰りのタイムテーブルを汲む

涸れ井戸 @kareido1111

君村類 @kmrrr_r09

曰帰り旅行

人目には付かないはずの場所だった青い池なら青さ忘れて
もう二度と足を止めない気がしても三段滝は変わらず落ちる
名水と持て囃される湧き水もかつては空の使者だつただろう
日帰りの旅行で行つた公園で池の底へとうずめた記憶
水面を揺らした風の速いこと、何故だかここに帰りたくなる
この川もきっと逸話があるだろう知らないままに渡り終わつて

河岸景都 @kate_kawagishi

久助 @nTblBm64shlt1ap

尻尾をなくして

えび天の赤いしっぽをどんぶりの底にのこしてふるさとを出でつ
環七の車の響きはわが部屋に夜ごと海辺の夢を運びぬ
ふるさとは田植の頃かエクセルの樹木を埋める雨の土曜日
米を研ぎ浸した水に手を入れる川遊びせし遠き日のごと
みずいろの蓋を開けばガラケーに貝殻のごと声はのこれり
靴ずれの踵かばうはマーメイド海なき方へ歩み去りけり

桐野黎 @Tower1710

黒須紗里菜 @tiki0326

岸辺の歌

流せない涙で泣いた水のよう流れる風に身体あずけて
折りにぶれさびしくなるために歩く 川はしづかに入り陽へむかう
夏果てて湖重く傾いて睡い 遠雷で充電せよ
雨上がりをもう待たない ゆっくりと蛹の中で虹を融かして
透明なレースを纏い泳ぎつく岸辺の歌を身体に満たす
君ともし寄りそなうことがあるとしてそれは海王星の渚で

恋は水色

5年前にカタカタ揺れるランドセルの水色恋は眼の前の人
行きつけのおもちゃ屋さんの店員と5年先には恋に落ち水色
水色の恋は知らないあの子には優しい君に川が流れる

水道の蛇口にたれた事たちの一つで君に思いの愛情
水色の記憶が海に流れたら山の心は癒やされますか
水色の天然水を玄関に並べて猫をおいだす夕べ

汀にひとり

in the bathroom

透きとおることばの重つたいくるきみのメールはたてがきのよう
霧雨の夜に本音は零れおちテールランプに渗むやしさしさ
あいづちはあいまいになり花時のおわりの気配まとう春霖
思うより泥濘ふかく鮮やかなハーバリウムは息をひそめる
雨粒の一滴ほどにはらわれてきみとの日々は霧散してゆく
もうきみにさざ波さえも立たぬこと汀にひとり立てば夕凪

玖嶋さくら @sacula_tanka

小泉キオ @kiokizumitanka

みづはやがて

みこころのままにと声がした世界すべてのみずは海に向かって
ずっと昔。荒れ地に沼があつた日のみずだけが知る人のみた夢
はやぶさが忘れた贊をみずが撫ぜ二度と起きない贊の血をのむ
やくそくを暴く驟雨に耳を貸し、世界のゆめに手のひらを貸し
がくに入れかざつた霜はかつて「書」の神話の上で成つた水像
てのひらを浸した水が凍り目を閉じれば湖は海になりゆく

紅坂紫 @YukariKousaka

海へ駆ける

永遠かのように続く夜ならば海辺で共に踊りませんか?
制服を着たまま駆けつた深夜二時大人になんてなりたくないや
過去たちをやさしさだけに変えなくて思い出せんぶ海に放つね
海になる 僕は飛んでく さあ、駆けよ やつと自由だ やつと自由さ
気分屋でお転婆なあの子みたいに海をピンクに塗つてみたくて
海を駆ける甘酸っぱさと焦れつたさ抱えたままの曖昧な僕ら

古都 梨衣子 @_yu_ca_li_

日々

はじめじめと倦む恋を映しソオダ水のグラスの底にたまる水滴
降る雨に姿を変えてきみの窓に会えぬ涙を注ぎかけたし
湖のはるかな底の黄泉の国で父が私に手紙を書きをり
いだき合つて豪雨に濡れる濡れる冷える生きている間だけ血は温かい
天井まで満たされた水に漂つてあなたに巻きつく白蛇になる
澄んだ水にとっぷり沈むわが町を見下ろしじこじこまでも泳ぐよ

日の高いうちの入浴まはだかの腹にあかるい石けんを置く
シャンプーは底に残つてしまふからいつもかなしい役立てるのに
平等で正しい水を吐くことに疲れたのだろう 蛇口が壘る
死んだあとママに会えなくなるのかと泣いた記憶がふるえ始めて
三度目の湯を注がれてティーバッグからため息のようなあかいろ
好きじゃない服を着て寝る なぜ今夜死ぬことはないと思えるのだろう

今 哀子 @3156AIKO

西藤智 @hitonosulab

今日も雨だね

雨降りに傘は二人を閉じ込めて線香花火の鳴り止まぬ夜
紫陽花の蕾の硬き早緑よ 五月の雨にほどかれてゆく
雨粒の落ちたとこから琥珀糖めく紫陽花の光こぼれて
京急線逗子・葉山行きどこへでも行けそうなのに行けなくて 雨
紫陽花の開きゆく音 駅舎から雨傘ばさりばさりと咲いた
アスファルトの黒く濃くなるところから梅雨のにおいの立ち上がる街

マザーウォーター

水割りの氷が溶けて薄まっていく身の内の女性というものが
甘やかなビアノピースのように降る雨には雨の企てがある
はからずも小言のような雨だれがあじさいの葉を打つ 受け入れる
友達の子どもの腕に触れたならすぐ手を離す花手水のごと
あきらめたものから順に果ててゆく 白く碎ける波は止まない
耳奥にそぞぐ言葉は歳月の砂に濾されて水脈となる

佐藤氷魚 @satochio_tanka

水の記憶

遊水池

空の水が滝のやうに落ちてくる着衣泳のスニーカー重し
生かされるすべての毛細血管に行きわたる水が血にあること
梅雨がくる水生哺乳類として生きた原始の記憶が泳ぐ
海へ出て陸へは帰つてこなかつたイルカの群れに見送られてゐた
朝露を飲むセセリチヨウ薄明のひかりのなかに人は立ちたる
水溜りのおもてを小さき創世の神の息吹がアメンボウとゆく

咲兵衛 @izumitakeishi

西鎮 @xi_zhen_ivUT

Vending Machine Fan Club

水に流れて

自販機のからのボトルは立つていて光るボタンが押された後も二進法に取り憑かれたか昨日から歩くりズムがどうもおかしいわたらしからあなたを引けばはらはらとのひらにふるかすかな雪花あんばんの裏見つめればそこはかと親王の行く海路浮かべり

百三十円持っていたかな自販機のさわやかチエリーと書いてある缶待とう蚊にくわれた痕がわたくしという現象が消えてゆくのを

待とう蚊にくわれた痕がわたくしという現象が消えてゆくのを

雀來  @jacksbeans2

せいや @petitchante

クオーツの水源

愁雨期

ひとつずつ祈りのちがうクオーツの数珠をほどいてあなたにあげる
黄水晶をくちにふくめばつかのまの風の湖面となる始発駅

紫水晶いつかどこかで咲いていた花の記憶を閉じ込めてある
黒水晶に守られている水源地わたしのために泣くひとのいた

赤縞水晶きっと抗つたぶんだけ増える水脈だろう
茶水晶棄てた瞬間に地に還るからあとずっと夜

ひとづづ祈りのちがうクオーツの数珠をほどいてあなたにあげる
黄水晶をくちにふくめばつかのまの風の湖面となる始発駅

紫水晶いつかどこかで咲いていた花の記憶を閉じ込めてある
黒水晶に守られている水源地わたしのために泣くひとのいた

赤縞水晶きっと抗つたぶんだけ増える水脈だろう
茶水晶棄てた瞬間に地に還るからあとずっと夜

途中下車できない夜行バスに雨 このまま生きるしかないんだよ
グッピーは虹を持つけど僕たちの希望みたいに小さいつてこと

姿煮 @sugartaini

たえなかすず @suzusuzu2009

梅雨のロンド

桜桃

初燕低く飛ぶなら雨となる庭の手入れは午前でおしまい
晴れの日はどこかにいきたい雨ならばあなたに逢おう 明日はくもり
「病葉」と言葉を一つ覚えた街に今なお「川は流れる」

雨傘と日傘に使う水玉のこの一本が六月のすべて

はつなつの植物図鑑に茄子みのり漬物のことを考えている

梅雨時にひそひそと降る雨たちよ内緒話は私もしたい

多香子

高橋良 @takahashi_ry5

うつくしい窓

もう戻れない

終電は水槽みたいな乗客の夢が魚になつてただよう
やわらかいからだを裂いて滴つた水を汲みとるためのくだもの
ざあざあと手から溢れてゆく水と光をシャワールームに満たす
水盤に赤いガーベラを浮かべてこそは断頭台だとおもう
ぼくだつていけるならいくコーヒーの水面に映るうつくしい窓

水槽に沈んだ青い熱帯魚きみのなまえを分かりたかつた
水槽に沈んだ青い熱帯魚きみのなまえを分かりたかつた

一滴の涙もなしに葬式の知らせは午前六時に届く
遺言は川に沈んだ愚痴ひとつ言わずにゆるす人だつたから
自惚れた悔悟だろうか酒を飲む約束をしていればだなんて
読む人のいない手紙は止めどきのないまま紙にインクが滲む
最後にと握った肌の感触も消毒液に上書きされた

朝焼けに泣き出す前の曇天の背を天使の梯子が照らす

いつか浮かべば

雨の眼

睡眠の記録アプリに課金して深夜の海に自我を沈める
脳内が泥にあふれる海行きの始発列車の検索をする
曇り空がらんと白い海に立つあの世の景と照らし合わせる
悲しくもないのに涙止まらない防災無線放送の声
つちふま湯船のなかで押しつぶす今日の苦味がごきゅりと鳴つて
ドイツでは風呂は三日に一度きり生きててもいいのインターネット

淹藤青瀬 @genso_aose

田村穂隆 @Da_Ho_Ra

水軍の季節

水軍がかつて巡ったこの国を今年も巡る夏という時
相模へと里見水軍進みゆく船の男の轟ける歌
九鬼の船つぎつぎ沖へ霸者織田を焼き尽くす火をその内に秘め
内海の王者の誇りいま船に丸に上の字掲げられたり
名門の熱き誇りは半島を守護する事ぞ三浦水軍
波の底にもあるという都へと還りし海の兵たちよ

田中翠香 @suikakinbeni

六月の遠雷

新しいことがなんにも起こらないわたしの宇宙に水遣りをする
文字だけのあなたは風のない湖面せめて雨でも降ればいいのに
気づかぬうちに濡れてるスカートの裾 不用意に零すつよがり
困らせてしまえばいいか小さくていいから波を立ててみせてよ
雨よ降れ 夜更けほろほろ交わし合う乾いた文字を押し流すほど
雷鳴が遠く聞こえるもういちど六月に溺れていたくなる

千原こはる @kohagi_tw

渴ききるまで

遠ざかりつつある月の薄暗さなにも持たずにはじき出されて
影のさすくぼみを海と呼ぶことの豊かな星に住まう無邪気さ
生き物に傷をつければ滲みだす湿り気 いつか降つてきたもの
つまりは死んでいるというのか、いわないか、乾いて風も吹かない星は
その時に「渴く」と言つた 咲き終えた紫陽花はみな小さくなつた
預かった水を余さずかえすまで死に顔の尾根はわずか艶やか

あかく咲く

ブラウスにランチのパスタソースの点 アジサイはまだ色を知らない
くたびれた電車が揺れてイヤホンの隙間に雨が染み込んでくる
順番に傘が開いて去つていきわたしはそれの最終の花
間違いのようなピンクのパンプスでぬかるむ今日と明日の境目
多摩川はいまごろ鳴いているだろう獸のように濁つた波で
切々とうねる潮が剥がれ落ちつくしくても戻れない白

中村育 @nakamirik

雨期には微も

クラウドが保存している水脈の画像をzipファイルで落とす
ローカルに水脈jpegのおよそ三百十の連番
jpegの前の水脈の名前を「確認済み」へと変える
水脈の東と西の特徴がブルーライトで見えにくくなる
ひとつだけ水脈という名を残す最もうつくしい水脈に
大脳皮質にウォーターサーバー 忘れようと何度も沈めた川がクラウド

長井めも @longmemo_tanka

中村成志 @nakam8

毒を飼う

契約に潜む危険のようなもの朱肉の毒は焼いても消えない
繊細なガラスの中で毒を飼う昨日も今日も平熱だった

体温計舌下に挿して神様とコウノトリの機嫌を伺う

水銀は決して鳴かない妊娠の兆しを告げたあの日でさえも

この子にも辰砂のような色の血が流れているのだ思い切り泣け

アマルガム私も息子も乱暴な言葉遣いになるときがある

橋原もか @kiharaneko

水入り炭酸水

会いたいと中途半端に願うからゲリラ豪雨に嘔われている
交じり合うあなたとなればそれでいい熱が集まる指先たちよ

弾かれてまた弾かれて壊れゆき戻らなくなる波紋のように
嬉しさも寂しさも独りなら広がることの無い水滴は

不器用な生き方だから水入り炭酸水をただ煽るだけ
あなたからだんだん消えるさようなら水たまりみたいに忘れられ

成瀬悠 @naruse000yuu

君に もジユースを買つてあげる

初恋も泡だつたと飲みほしてベットボトルの底は花びら

「間接キスしようか、コインランドリーで。防犯カメラも見てくれてる」

そういえば、四次会でみが歌つてたみくしゅじゅ一ちゅ、すこよかつた

筆名を綾鷹にして投稿すれば選ばれたのは綾鷹でした

ストローをイヤホンジャックに差し込んで今日はグルーブ魂を呑む
サンガリアやチエリオのような立ち位置でこの世の中を生きてゆけたら

奈瑠太 @nelda_aa

スイミング

飛び込んで蹴つて搔いては水しぶきかけ声響く夏がはじまる
水をくうこの手でつくる指鉄砲あのフラッグへ心も飛ばす
2級では蛙になるよ、突つ伏したプールサイドでエア平泳ぎ
朝9時の第7コースは青い海もぐれば光りの梯子が射して
クロールの勢い過ぎた息継ぎでローリングしてみえた青空

ほらほらん、夕陽がきれいと教えた斜陽のそぞぐプールのなかで

- 16 -

西淳子 @Jacky244Ray

みづぱづる

みづばづる混じり合わない水ばかり分けて重ねて重ねて分けて
青い水はれの日の海ぎんいろは暁天の海分けて重ねて

むらさきの水はむらさきどの水もあるべきほうへ分けられてゆく
みずばづる混じり合わない水ならばどれかは水じやないらしいです

水のふりしているひかるブロックがたぶんたぶんと夜を濡らした
分けきれず失敗をした描きかけの水の景色がばれっとにある

遡上

かき水（いちば）は溶けて手のなかの偽物ばかりあざやかでした
区切れない海のどこかでこの国に生まれたときから降っている雨
銳さを失くした小石 川沿いに浄化すぎた記憶が積もる

遡上する 踵にあるたましいをつめたい川に浸しつづけて
花曇り 嘘にならない沈黙を使いこなして佇む岸辺

決まりから遠く離れたみずうみに花は咲かない、冬鳥を飼う

早月くつ @k_hayatsuki

雷は花に濡れる

早朝に飲む夜の水 キャスターは雨の記憶から失っていく
悪口は濡れて花びらは透けて死の手前にいるんだろう夏だから

水面を削つてあなたに海をかけ手のひらはいつときの不凍港
憧憬にモザイク 雨はこの街の全てをプールサイドに変えて

潮風が染みた目で取り返し付かんとここまで行こう、車で、青い
長雨の意思を離れた雷があなたを選る ネイティブ・ダンス

水玉模様

気まぐれな雨に長居を許されてゆっくり空になるティーポット
落下していく花びらのその音を聴く静けさを私にください

雨の粒一つ一つに紫の絵の具を溶かして満ちる藤棚
辛口のジンジャエールをグラスへと注ぐここにも初夏の木漏れ日
にわか雨受けて歩けばとりどりの水玉模様になるワンピース
雨上がり虹が立つとき眠りから覚めた天使の羽音がまさる

- 17 -

林見 年 @poya5himi

飛和 @hiwa_towa

一)の街は夢だうけ

ひかりーと

飛び立てる空を探して渡る橋まっすぐ生きていたい、ここから
ささやかでまるい光の粒になり走る湾岸線のパノラマ
なにもない場所としてある島の名に夢と冠してめざす未来は
川を越え街を繋いで新しいルートを紡げなにわ筋線
淀川は海ではなくて第二寝屋川は溝ではなくて たそがれ
愛を告ぐには広すぎる OSAKAで身を尽くしても会いたいひとよ

福山 桃歌 @momoka_fukuyama

濾過装置

垂れてきた雨で片目を閉じるほど冷静だから健全だから
使い捨てドライアイ用目薬のようにさしたい刺身包丁
もし僕が狩人ならば味噌汁に肉と茸をたっぷり入れる
まだ夜だ まぶしい白の朝霧のおぼろ豆腐に山葵を添えた
ご飯時シャチ水槽の水色と同じ色した水出し紅茶
バスタブで首を洗おうティーツリーボディーオイルもたっぷり塗ろう

古井久茂 @fulidom

薔薇と黙

夏の土みずを注げば匂いたつこの世の薔薇のみなゆくところ
ないことになるはずはなく薄明ににこつた水の匂いがのぼる
くりかえし死ぬ狼の疾走を硝子をへだて雨などと呼ぶ
女の子の流す血みたい。ベランダに最初に咲いた薔薇切り落とす
漂白は生者の仕事 解釈は生者の仕事 生者は匂う
水中に揺れる手指のかげ淡くこれは渡りの獣のかたち

穂崎円 @golden_wheat

水のことば

あめ。ぼくはいいんだよ。いいにじるよ。つてソーダはグラスに弾けつづける
それなりに拭ったはずのサドルから昨日の雨がじゅわりと滲む
五歳児が切つたみたいにずれている川の流れと町の境は
濁りとは命の別名かもしれない 庭のバケツに雨は濁つて
君という島に向かえる舟はなく波打ち際で小石を拾う
ひび割れた大地が水を弾くように君の言葉を諾せずにいた

本条恵 @Singles_cafe

傘持ち係

友達に序列があること対面で示され無言で啜るレモンティー
トトロにはもう会えないと知った日のなみだはほんとの色をしていた
浴室に足りないものは明るさで午前三時の丸い膝小僧
夢なのか夢じゃないのか知っているわたし多分もうきれいに泣けない
降る雨の音を飲み込むサイレント機能は右へスライドをする
常夜灯 泣みみたいな金平糖自分のためにおとしてすすむ

真崎あや @ayayamk

Watercolor

極小のうみをまぶたに隠しつつ遠くの街のことを話した
ばかだなあ、かなしみは雨ではなくて、心臓に咲く花。花だよ
真夜中に蛇口をひねるくちにするものが身体になるならきみを
六月の風はほとんど水だから抱きしめてみる許されたくて
水たまりを踏んで歩けば足元で向こうのぼくもぼくを踏むんだ
もし次もみずになるならすずらんの葉をひからせる朝露がいい

牧角うら @mkdoki

右手から花束が溢れる人の後ろ姿を見送って、雨
深呼吸 プールの底で吐き出した祈りがみつかりませんように
でも君は泣いてもいいと痛んでくれる古傷がある
たぶんもう会わないだろう跳ね返すひかりごと水たまりを越えて
炭酸が街をめぐつて夏になる 拭った涙、あなたにあげる
ブレーキも無く下る坂 青春を呼ぶように三ツ矢サイダーを買う
ひかりーと

古川柊 @furukawasyuu

右手から花束が溢れる人の後ろ姿を見送って、雨
深呼吸 プールの底で吐き出した祈りがみつかりませんように
でも君は泣いてもいいと痛んでくれる古傷がある
たぶんもう会わないだろう跳ね返すひかりごと水たまりを越えて
炭酸が街をめぐつて夏になる 拭った涙、あなたにあげる
ブレーキも無く下る坂 青春を呼ぶように三ツ矢サイダーを買う
ひかりーと

青にする

紫陽花も誓うでしよう

尾道はしみず食堂のラーメンの器の中も海、しょっぱくてもし草原あるいは大海原にいて見る夢はたぶん君との初恋雨匂う油絵具は混じり合う薄むらさきのみゆき画材店しきがねの針はやさしい波縫いの湖面の皮膜を刺し継ぎながら眼球は凸があるので滲み出す涙は凹のグラスに落とす液体は弱アルカリ性 涙してグラスに満ちるもの青にする

丸山恵子 @lg9v1L8WMEMaqfs

深影コトハ @acotoha_mikage

紅茶との距離

24時間いつ飲んだってかまわない午後の紅茶を見たことはあるリップトンのパックにストロー差して飲む女子高生を見たことはある父親が母親のため買い溜めた紅茶花伝を見たことはあるルビシアに並んだ丸いサンプルの余程な数を見たことはある花が咲きゆめが広がるマガジンで紅茶王子を見たことはある一度だけ口に含んで吹き出した 麦茶のつもりだった紅茶を

御糸さち @MEATsachi

銀の毒

天気雨きらきら 電話ボックスの君の世界には僕はないあそこにもここにも傘は開いてるけど私の入れる場所はどこにも雨音の増幅器として傘は無数の声を聞くを強いたり鍋の底水がとろりと銀の毒飲みきれないコーヒー夜が更けるゆづくりとセックレスをうけいれる 白湯をのむ夜閉じてゆく夜滴垂る 切断された縦笛に通う命は確かにあつた

水沢穂波 @3hohenheim

謫々蓮花

かなしみはいつか蝶へと成るでしよう今は嘆きと花を返して水面にてうつる青色空の色手を伸ばしてはとぶり落ちてく穏やかにもうおだやかに眠つてね祈りなんてさ裏返り見るほとりには甘き乙女の微笑みと残る白百合崩れて散華月のない夜に瞬く星屑のひとかけらだけ触れてみたいの彼方へと伸ばす指先あたたかく思えるときはくるのでしようか

夏が泳ぎ出す

真夏日へ近づくまでの予告編としてぼくらを焦らす梅雨空ちよつとだけ今日を楽しく過ごすためいろはす（桃）を買う屋下があり晴天が知らない花の顔があり雨はつばみを優しくあやすいつもより熱めのシャワー 悔しさの温度を超えるものを教えてたんさんすいすいのところでもう夏がちょっと泳ぎ出しちゃってるじやん「いっからが海」だと言えば海になる幼子たちのまばゆい世界

水也 @m_iya_o

睦月 雪花 @mu_tsu_ki_s

霧を抜けて来ただけなのに

ねえウンディーネ 3

七色の水を混ぜればどす黒くよんどんでしまう顕し世の夢ウンディーネもドライアードもない森ひかりまばゆいヴァーチャルの森鉄の雨 鉄屑の町 地を濡らす血潮にウンディーネは宿らないかさかさの感情の襲うるおいを与える露がはじけ転がる涙など忘れたよねえウンディーネ人はここまで乾いてしまう四十日四十夜降り注ぐ雨に砂に描いた世界は消えた

宮嶋いづく @miyazima_izq

村田一広 @muucci2022

生命のみず

治療より終わりが欲しいけど今は選択肢のない車内で眠る
蟻の歩く速さで震えは広がって 世界と僕の波間に消えた
「理解」という標語を掲げた大部屋で有効に使う手指消毒
チエイサーを流す角度で頷いて退院までの流れを聞いた
飲まないと存在が普通以下だから飲めば普通になれる気がした
だとしてもあと一日を積んでいく生命の水を断つた身体で

もんそん @monsontanka

夜夜中たりとて @yorusari

笑つちやうなう

うなばらを撫ぜたゆくえを追うようにとつくな沈んだわたしの舟の
詩をすべて忘れるみたいに妹はウイルキンソンを飲むようになつた
その絵にはうその海岸うそのイルカほほえんでいた みんなご無事で
汀でもかわらず白いシャツを着て君はわたしを問題と呼ぶ
夕暮れに蚊の産まれくる水さやかわざと失くしたサンダルのいふ
死なないさん 波やべーつてそんなんで笑つちやうなら生きてもしようよ

湯島はじめ @hajime_yuu11

ひとり、銭湯

サウナのある銭湯へゆく都合よく逃げられざうなことば探しに
洗ひ場のとなりビオレの匂ひして暮らしの幅も共有してゐる
湯けむりに溶かさみしさ学生は学生のための話でわらふ
きみがみて後輩もみて何もかも道連れにするくらゐの熱波
やや早いプール開きの絶叫を思ひだしつつ水風呂を出る
もう誰も付いてくるなど言ひたげな口をオロボで塞いで帰る

いま @lama_miyashita

樂園に死に水はない

樂園に死に水はない年齢を重ねぬひとの生まれを祝う
水要らぬ花と己を称すひとその歌声に潤うこいふ
緑にも黒にも見える水色を青と言ふひと選べる自由
降り止まぬ雨の女を演じきるひとの結びの眩しい聲音
どの国の水もおそらく合うひとがここがいいよと言い切る夜更け
気がつけば芽伸ばし育つひとがいて水の代わりに送る声援

ルオ @ruo129

Regenwelt

赤信号雨粒がうつ窓に手をあてて感じる小いんぱるす
むだに広い駐車場の端のほうとり残されたみたいにとまる
うすいまくみずのなかではうすいまくちよくせつふれたきがしないから
傘なんてささずに行こうよあすこまで衝撃だけを共有している
落ちていくみずたまりのなかこの町が崩れるまえに飛び越えておく
間接の世界が終わる。雨の音、ふつた切られる 扉が閉まる

二階席の守護天使

それはまるであなたか僕のどちらかがこの世を終えるような曇天
三叉路をなるべく右へ行きながら夜の水辺を目指さなくては
海拔の標示があつて訥々とあなたが海の詩を詠んじる
老人と海と天国の三すくみはわざわざ図解するほどだつた?
僕は電車をあなたはバスを調べつつ座れる場所を椅子と見做した
それぞれの朝、それぞれの朝マック すべての二階席の守護天使



2022年初夏 「水」がテーマのアンソロジー みずつき 11

発行：2022.06.06 | 短歌：ご寄稿くださった皆様 | 企画・編集・装丁：千原こはぎ